

■地域情報の収集と避難訓練

住んでいる地域の防災計画を確認しておきましょう。災害の時に避難場所までどう行くか、建物の倒壊などで道が通れなくなることも想定して複数の経路を考えましょう。そして、実際に家族で動物を連れて避難場所まで行く訓練をして、所要時間や危険な場所等をあらかじめチェックしておきましょう。また、地域で災害対策の会合や避難訓練を行うときなどに、動物を連れて避難する方法を地域住民と話し合っておきましょう。

避難訓練でのチェックポイント

- 避難場所までの所要時間
- ガラスの破損や看板落下などの危険な場所
- 通行できないときの迂回路
- 避難場所での動物の反応や行動
- 動物が苦手な人への配慮

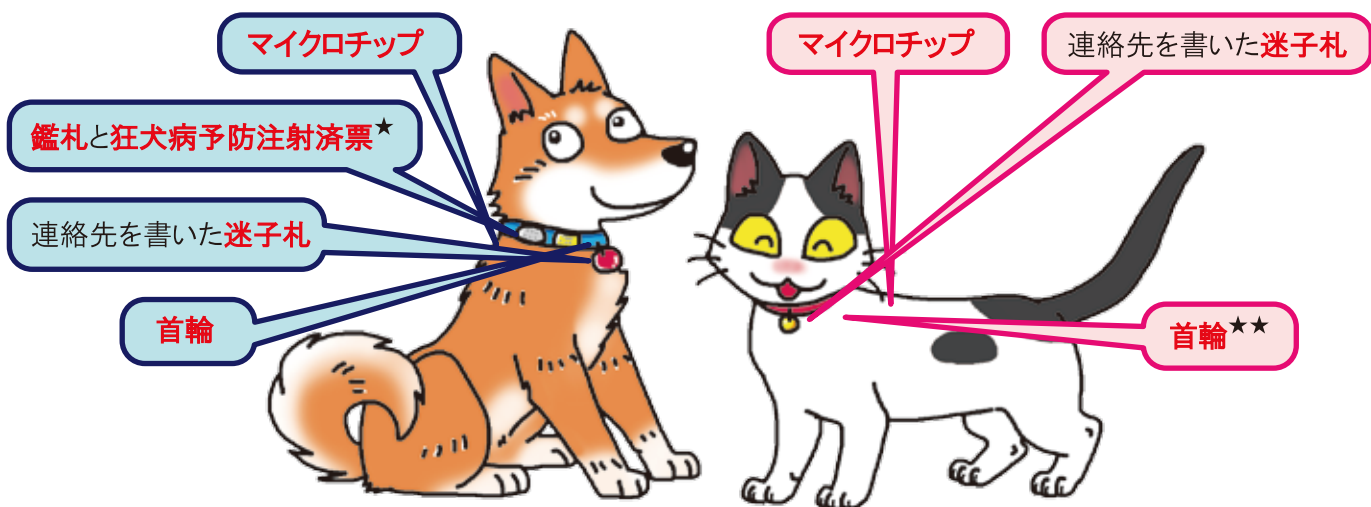


■迷子札とマイクロチップ

突然の災害では動物と離れ離れになるかもしれません。動物が迷子になりどこかで保護されたとき、すぐに飼い主がわかるように、普段から身元を示すものをつけましょう。外から見えて誰でもすぐわかる迷子札(鳥は足環など)をつけるとともに、半永久的に識別可能で確実な身元証明としてマイクロチップを入れるといった、二重の対策をとります。

犬の場合

猫の場合



室内飼いの小型犬や完全室内飼いの猫でも、パニックになって開いた扉から逃げ出したり、地震等で倒壊した**壁の隙間から外に出て行方不明**になった事例が多数報告されています。災害はいつ起こるか予想できないので**首輪**を常につけているようにしましょう。過去の災害では、**迷子の間に痩せて首輪が取れてしまった**事例も起きていることから**マイクロチップ**も忘れずに入れるようにしましょう。

!! **その他の動物の場合** …動物の種類に応じて、足環、耳標などをつけ、マイクロチップも入れましょう。

★犬の鑑札と狂犬病予防注射済票の装着は狂犬病予防法で飼い主に義務付けられています。
★★猫の首輪は引っかかりを防止するために、力が加わると外れるタイプを使用すると良いでしょう。